

2020年9月の事務局活動

- ・2日(水) 多摩研 50周年資料作成等打合せ
- ・4日(金) 会員・受講者データベース作成打合せ
- ・5日(土) 第40回 議員の学校(特別・オンライン版)講義撮影
- ・7日(月) 106号室 整理、掃除
『緑の風』編集会議
- ・12日(土) 全国地域研究所事務局長会議
- ・18日(金) 多摩研 50周年事務局会議(第1回)
- ・20日(日) 自治体学校 記念講演 DVD 上映会
- ・21日(月) 第40回 議員の学校(特別・オンライン版)講義撮影
- ・24日(木),25日(金) 財政分析基礎講座(10,11月開催)チラシ発送

事務局よりご報告

(1)初めてのオンライン講座を開催

「地方自治を真ん中に憲法の全条文を読む」◇導入編

2020年10月17日(土),18日(日)で「地方自治を真ん中に憲法の全条文を読む◇導入編」(議員の学校)を初めてオンライン(Zoom)で行いました。新たな試みのため、多くの理事や会員のみなさまより、ご協力やご支援をいただき、何とか無事に終了することができました。

オンラインでの受講が初めての方々も多くいらっしゃいましたが、事前のZoom練習会なども行い、当日は大きなトラブルもなく、進行できました。

受講生からは「憲法と地方自治について、目からうろこでした。」「こんな風に憲法を学んだのは初めてでした。」「自宅で学ぶことができうれしいです。」「直接会って受講するのがベストだが、交通費や宿泊費がかからずに受講できるのがいい。」などのご感想をいただきました。

講座や学習会での、こういったご感想をいただくと、多摩研の事務局で働き続けてきて、本当によかったと実感します。(講座講義1~3のDVD[税込3,000円]販売中)

(2)市町村財政分析基礎講座を再開

この10月・11月より、「市町村財政分析基礎講座」を再開いたしました。財政デザイン研究所の事務所をお借りして、定員6名、コロナ感染対策を実施しつつ、小規模講座です。10月は山形県からご参加の方もいらっしゃいました。

(3)多摩研 50周年に向けて

来年の多摩研 50周年に向けて事務局会議が発足しました。会員のみなさまにも、近日中に、あらためて50周年企画について、ご案内いたします。

キニナルコト

神子島 健

(かごしま・たけし)



vol. 89

今

号の「データ多摩」は、森林についてなんです……「Aさん、マイクがミュートになっています」あ、失礼しました」

多摩研、『緑の風』の編集会議での光景である。事務所に来る人もいるが、ビデオ会議のZoomで参加する人もいるにや。操作について手間取ったり、マイクやスピーカーの不具合が起ることもある。とはいえ、つい先日、初めて「議員の学校」をオンラインで実施したりと、便利なのは確かだにや。

「森林といえば、データ多摩からは離れますが、以前、群馬県の上野村に行った時に「日航機が墜落した御巢鷹山のところですね?」はい。ちょうど今くらい、十月末でしたが、標高が高いので、すっかり紅葉していました。車から降りた瞬間、

「たんですよ」「甘いにおい?」「蜜みたいな感じですが、秋の森林のにおいですね」「そんなのあるんですか?」

「あるんですよ、きつと。この間、近所で落ち葉の多いところで似たにおいがしたんですよ」「へえ」もっとも、上野村では村のどこに行ってもそのにおいに包まれる感じでした。一回しか行っていないから、他の季節だとかはわかりません」

先日、吾々ネコ仲間の間でも木の話が出たばかりである。場面はいつもの公園に移るにや。久々に晴れて、吾輩はチー子と日なたぼっこをしていたところだにや。ポカポカしてあくびが出る、のんびりした時間だったのだが……「あれ?」とチー子が歩道の方を見た。「なんだにや?」「今、ネコがこっちに来てるみたいやっただけど、電柱の陰に隠れた」だれだにや?」

「トラちゃんちゃうかな?」と言うチー子は落ち着かない様子である。

「トラさんが来てどうしたにや? 気がつかないふりして来たらおどろいてあげるのかにや?」「そやない。トラちゃんと前に会ったのが五月下旬ごろや。そのあと何があった?」「その後? 特に何も変わらんにやあ」「大ありや」「何だっけ?」

「弥生が子ども産んだやろ。トラちゃんはそのこと知らんはずや」「はあ」「はあ、やないわ。孫みたいにネコかわいがりしてたヤヨが突然母親になつたなんて知ったら、トラちゃん心臓止まるか、パパを探して殴り込みに行くか、どっちかや」「まさか。それにしても、ネコがネコをネコかわいがりとはこれいかに」と吾輩は笑うが、チー子は結構本気らしい。



群馬県多野郡上野村。「山深い」という表現がびったりなところと言える。

「弥生のことは絶対ゆうたらあかん」「いずれわかるんだから伝えた方がいいにゃー」「いや。トラちゃんはどうせ数日したらまたどっか出かけるんやから」「数日の間にヤヨの話が出ニヤいわけはない」「そうかうちらがここにいなければヤヨのことを話す必要がないわ

「何か面白いことはあったか

「ふーん、そんなトコは行かなかったけどよ、今回は何と言つても法隆寺だな。聖徳太子さんが作ったありがたいお寺だな」「まあ、聖徳太子というか、

「そして最初に建造された寺院が六百七十年頃焼けてしまつて、現在のものはそれ以降に再建されたものだにゃ」「そんなことわかんのか?」「建て

な。ウチ帰る」「いやいや、ちよつと」と吾輩は右前足でチーちゃんの前足でチーちゃんの前足を踏んで、シツポをおさえつける。「やめてや!」とチー子が怒る。「ハッハッハ。珍しいな、タマとチーちゃんがケンカなんてと、吾々が話し込んでいる間にトラさんがやって来た。「ケンカじゃニヤい。じゃれていただけだにゃ」「なんだ。相変わらず仲がいいな」「トラ

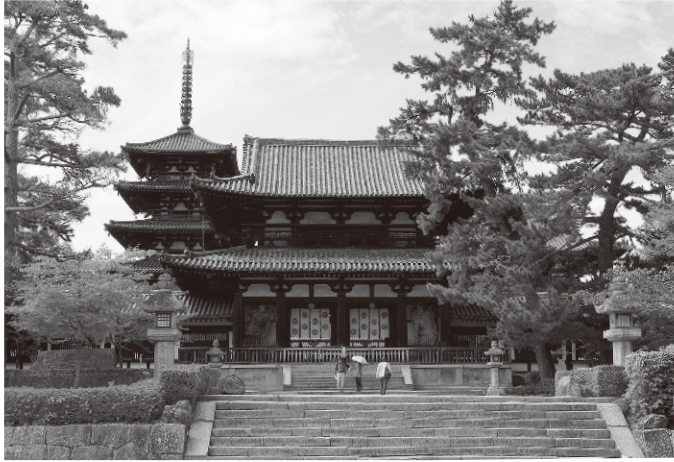
「大阪で育つたウチとしては、何といつても生駒山やな」「なんだ、その山?」「奈良と大阪の県境に会つて、有名な夜景スポットやな」

「えーと、情報が多くてわからん」「歴史的には厩戸皇子という人物がいて、彼が仏法興隆つまり仏教を広めるために法隆寺を立てたわけだにゃ。その彼がいわば「伝説的人物」として、色んな伝承がくつついて偶像化され、後世に定着したのが「聖徳太子」と呼ばれる人物イメージだにゃ」「なんや。聖徳太子はおらんかったゆうことか?」「ザックリ言えばそうだが」「なんだつて?」と、トラさんの細かい目が驚きで(一応)丸くなる。

「最後に奈良に行つてな」「京都、奈良だにゃ。ナラは韓国語だと「国」、古い日本語だと「平らな」という意味があるという説も聞いたことがあるにゃ」「そうか? 山が多そうだけども」「その通り。南の方は山深く吉野杉で有名だし、平らなところも盆地だから、結局は山に囲まれてる」

「最後に奈良に行つてな」「京都、奈良だにゃ。ナラは韓国語だと「国」、古い日本語だと「平らな」という意味があるという説も聞いたことがあるにゃ」「そうか? 山が多そうだけども」「その通り。南の方は山深く吉野杉で有名だし、平らなところも盆地だから、結局は山に囲まれてる」

「最後に奈良に行つてな」「京都、奈良だにゃ。ナラは韓国語だと「国」、古い日本語だと「平らな」という意味があるという説も聞いたことがあるにゃ」「そうか? 山が多そうだけども」「その通り。南の方は山深く吉野杉で有名だし、平らなところも盆地だから、結局は山に囲まれてる」



法隆寺 中門と五重塔・回廊方面を撮影したお馴染みの図であるにや〜。

直しがあつたことは遺跡の状況などから間違いニヤいし、様々な記録を総合して、そう判断されているにや「へー」

「ところでトラさん、見て来たんだから、法隆寺が何の木で造られたか知っているかにや?」「何の木だつて? え、杉か?」「残念」「じゃあヒノ

キか?」「正解」「ほら当たつた」「間違えたやろ」

「建造から約千三百年以上と言われているが、ヒノキでなかつたらそれだけ持たなかつたと言われているにや」「ホンマ?」「昭和の大修理と言われる、建物を解体して行なつた大規模な改修工事が、戦争をはさ

んで一九三四―五四年にあつたのだが」

「え、解体したん?」

「そうだにや。その時に、今までの部分がいっ補強され、直されたかというところがかなり分かつたようだにや」

「補強つて?」「例えば、柱や梁の一部が弱つたら、そこをくりぬいて新しい木をはめ込んだり、その梁自体を新しく作つたり、ということが行われてき

たのだにや」

「そんなことやつてきたん?」「そうだにや。大規模な修理は、平安、鎌倉、室町、江戸時代、大正、昭和、平成と、何度も行われている」「へ〜」

「徳川家康が江戸時代の初め、豊臣秀頼、秀吉の息子だにや、彼に法隆寺などの修繕を命じたのだが、当時すでにいいヒノキはあまり残つておらず、コストを下げるために松や杉、ケヤキなどを使って修理をしたのだにや」「へ〜」

「昭和の大修理にかかわつた宮大工の西岡常一さんという方が、特に松やケヤキで修繕されたところは既に腐つたりしてひどかつたと言っているにや。つまり三百数十年と持たなかつたということだ」「杉は大丈夫だつたんやな?」

「そう。いい杉は七〜八百年くらいもつので、そこは大丈夫

だつたものの、千数百年に耐えるヒノキにはかなわニヤい。昭和の大修理の時に全部ヒノキに取り換えたということだにや」

「へー。すげえな。ときに木といえよお、植物の芽吹くのは春が相場つてもんだが」と、トラさんが話題を変える動きを見せる。春というと三月(旧暦だが)、弥生、ヤヨの話に振ろうとしているのだろう。

「タマちゃん、法隆寺の話おもしろいわあ。もつと教えて〜」とチー子は話を引き戻そうとする。「トラちゃんもせっかく行つてきたんやから、記憶の新しいうちに、タマちゃんからちゃんと法隆寺のこと教わるとき」「お、おう。そうか?」ととりあえず納得した(まるめこまれた?)らしいにや〜。ということで、法隆寺の木の話はまだ続く。



多摩地域の森林面積・蓄積量の変化

今回のデータ多摩は、多摩地域の森林についてです。

データ多摩ではvol.1.8（『緑の風』vol.133、2011年4月号）でも森林面積を取り上げていますが、今回は長期的で詳しいデータを取り上げます。

日本の森林面積がかつて（例えば戦時中）より増えていると聞くと、驚く人が多いようです。昔は自然が豊かで、今は自然が破壊されているという思い込みがあるからです。しかし、昔の方が木材という資源の重要度が高かったため、森林は利用するのが当然だったわけです。多摩地域の森林の変化を長期的なデータで見てください。

東京都全体の推移

表1で、東京都全体の森林面積の推移を大づかみに見てみます。特に明治・大正期は必ずしも毎年のデータがあるわけではないので、わかるうちのいくつかを抜粋しています。年ごとの変化が激しく、木材の利用量が建築材の需要などで大きく変化したことが考えられます。データの不備もあるかもしれません。1908年の数値は他との差があまりに大きい気がします。

1893年、三多摩の東京移管によって、前年より約5万haの増加がみられます。大雑把に言って、この頃の多摩地域の森林面積が5万ha前後であったことが推測されます。これは現在の約5万1000haと大差ない、ということになります。また、敗戦直後の復興需要で、大量の木材が伐採されたこともデータから見てきます。この30年くらいは横ばいです。

ちなみに、2015年森林センサスによれば、全国的には森林面積の3割弱（28.9%）を国有林が占めるのに対し、多摩地域は2018年度で2.2%（高尾山周辺）と極めて少なく、私有林（68.0%）と公有林（25.7%）が比較的多いという特徴があります。

森林の多い自治体、減った自治体

表2は、「主な自治体の森林面積と森林率の変化」です。1965年頃にまとまった森林が残っていた自治体を抜粋しています（それに、現在わずかながら森林が残っている調布を加えています）。ここに掲載されていない自治体は、すでに60年代半ばには、かなり森林が失われていたことを意味します。

「1965年頃」と半端な数字になっています。詳細なデータの掲載されている『東京都の林業』が、当時、都全体の細かいデータを毎年更新して（あるいは公表して）いなかったためです。昭和42年版を見ると、地域によって1964年のデータだったり、65年のデータだったり、ばらつきのある年度が並列されている状況ですが、この50年ほどの推移を見る目的で、このような書き方にしています。これは同じ冊子のデータを用いている表3、4も同じです。

西多摩の各自治体の森林面積が、横ばいか微減程度なのに対し、町田、多摩、稲城などこの50年間で市街化の進んだ南多摩地域の減少が激しいことがわかります。また、1965年頃の時点で、すでに市街化が進行していた北多摩地域には、まとまった森林は東大和、武蔵村山、小平にしか残っていなかったことも

表1 東京都の森林面積の長期的な推移

年	ha	指数 (2015=100)	備考
1892	11,123	14	
1893	60,165	77	三多摩が東京に移管される
1905	71,194	91	
1908	118,276	151	記録上の最高値
1926	70,250	89	
1945	70,011	89	
1949	51,610	66	記録上の最低値
1952	79,862	102	
1965	81,616	104	
1975	80,812	103	1968年小笠原諸島返還
1985	79,654	101	
1995	78,678	100	
2005	78,539	100	
2015	78,562	100	

データ出典：1893～1949年 『林野面積累年統計』林野庁経済課、1971年
 1952年 『東京都の林業 昭和31年版』
 1965年以降 『東京の森林・林業 令和元年版』

表2 主な自治体の森林面積と森林率の変化

	総土地面積(km ²)	森林面積(ha)			森林率(%)	
		1965年頃	2016年	増減	1965年頃	2016年
奥多摩町	225.53	21,306	21,167	△ 139	94	94
檜原村	105.41	9,667	9,751	84	92	93
八王子市	186.38	10,978	7,834	△ 3,144	59	42
青梅市	103.31	6,985	6,464	△ 521	68	63
あきる野市	73.47	4,709	4,397	△ 312	64	60
日の出町	28.07	2,051	1,905	△ 146	73	68
町田市	71.8	2,558	778	△ 1,780	36	11
羽村市	9.9	106	5	△ 101	11	1
瑞穂町	16.85	296	278	△ 18	18	16
調布市	21.58	3	3	0	0	0
日野市	27.55	390	32	△ 358	14	1
東大和市	13.42	244	173	△ 71	18	13
武蔵村山市	15.32	217	59	△ 158	14	4
稲城市	17.97	544	21	△ 523	30	1
多摩市	21.01	676	0	△ 676	32	0
小平市	20.51	79	0	△ 79	4	0
東京都	2190.93	81,683	78,562	△ 3,121	37	36
区部・多摩計	1786.77	61,137	52,867			
23区計	626.7	0	0			
多摩地域計	1160.07	61,137	52,867	△ 8,270	53	46
島しょ計※	404.16	20,546	25,695	5,149	69	64

『東京都の林業 昭和42年版』と『東京の森林・林業 平成28年版』より算出
 ※1965年頃の森林率の計算には、小笠原諸島の面積(104.35km²)を含めていない。

わかります。

敗戦後すぐの過剰伐採から回復して、この後、市街地の拡大による伐採の時期に入ったわけです。全てのデータを検証するには至っていませんが、前後のデータを見る限り、この1965年頃が戦後の多摩地域の森林面積のピークの時期（か、それに近い時期）と言えそうです。

森林は育っているが

表3は「東京都における森林計画区（民有林）の森林面積と蓄積の変化」、表4は「東京都における森林計画区（民有林）の天然林と人工林の面積の変化」です。

まず、用語の説明をしておきます。

- ・**森林計画区**: 東京都では、森林の管理を多摩森林計画区と伊豆諸島森林計画区の2つに分けて管理していますが、かつては多摩地域が3つの計画区に分かれていました。現在も、その区分でデータを出すことが多いので、それを使っています。島しょを除いた3つの（旧）計画区の各自治体は表3に書いてありますが、ここでの多摩川、秋川、浅川というのは厳密な流域を指すものではありません。また、「民有林」と書いてありますが、この計画区は国有林を除いた森林全体を指しますので、都営などの公有林を含んでいます。
- ・**蓄積(量)**: 木は当然、成長にしたがい体積が増えます。植えたばかりの木と樹齢50年の木では全く異なります。森林の体積を算出した数値で、面積が変わらなくても成長すれば蓄積量が増加するわけです。当然、蓄積量

の増加は二酸化炭素の吸収量の増加につながります。

さて、表3からは、面積がこの50年余りでそれなりに減ったが、蓄積量が大幅に増えていることがわかります。西多摩全体では3倍弱に増えています。これは表4に見られるように、西多摩地域で人工林が増えたことと関連しています。1960年代前後の「拡大造林」と呼ばれた、天然林などを材木用の人工林に植え替える動きによるものです。成長の早いスギやヒノキなどを全国各地でたくさん植えたのです。現在はそれがかなり成長してきている時期に当たります。

人工林は人が管理しないと荒れやすいのですが、林業の長期的な低迷で管理されない森林が増加しているのは全国的な問題です。都の報告書などを見ると、多摩地域もやはり楽な状況ではないようです。

林業の先進国であるオーストリアやドイツでは、蓄積量を計算して、増えた分を伐採し、また植えていくことで、再生可能な資源である森林資源を保全しながら積極的に使っています。ところが日本では、蓄積の増加に比べて木材生産が少ない状況が続いています。森林が成長しているというと、いいことのように思えますが、それにもかかわらず林業が活発にならないことを問題にしないといけないのかもしれない。

追記：多摩地域の森林の長期的な詳しいデータは、まとまった形で公表されていないのが実情のようです。データの確認等で、都立中央図書館と、東京都産業労働局農林水産部森林科、林野庁の東京神奈川森林管理署にお世話になりました。



表3 東京都における森林計画区(民有林)の森林面積と蓄積の変化

	年	1965年頃	2016年	約50年間の増減
		面積ha	45,139	43,966
西多摩	蓄積 千m ³	4,108	11,128	7,020
	面積ha	28,712	27,914	△ 798
うち多摩川計画区	蓄積 千m ³	2,882	6,960	4,078
	面積ha	16,427	16,052	△ 375
うち秋川計画区	蓄積 千m ³	1,226	4,168	2,942
	面積ha	14,792	7,718	△ 7,074
浅川計画区※2	蓄積 千m ³	922	1,891	969
	面積ha	59,931	51,684	△ 8,247
多摩計	蓄積 千m ³	5,030	13,019	7,989
	面積ha	20,216	19,172	△ 1,044
島しょ※	蓄積 千m ³	1,171	2,216	1,045
	面積ha	80,147	70,857	△ 9,290
都合計	蓄積 千m ³	6,201	15,235	9,034

※2 浅川と島しょには国有林が存在するが、このデータには国有林の部分は含まれていない。国有林を含む面積については表2を参照のこと。
 多摩川計画区: 青梅市、奥多摩町、瑞穂町、福生市、羽村町
 秋川計画区: あきる野市、檜原村、日の出町
 浅川計画区: 上記以外の多摩地域、および23区

表4 東京都における森林計画区(民有林)の天然林と人工林の面積の変化

		面積(ha)			割合※3	
		1965年頃	2016年	増減	1965年頃	2016年
西多摩	天然林	21,178	16,936	△ 4,242	47	39
	人工林	23,135	26,538	3,403	51	60
うち多摩川計画区	天然林	15,530	12,266	△ 3,264	54	44
	人工林	12,550	15,238	2,688	44	55
うち秋川計画区	天然林	5,648	4,670	△ 978	34	29
	人工林	10,585	11,300	715	64	70
浅川計画区※2	天然林	9,483	3,394	△ 6,089	64	44
	人工林	5,060	4,156	△ 904	34	54
多摩計	天然林	30,661	20,330	△ 10,331	51	39
	人工林	28,195	30,694	2,499	47	59
島しょ※2	天然林	10,146	14,580	4,434	50	76
	人工林	9,039	3,445	△ 5,594	45	18
都合計	天然林	40,808	34,911	△ 5,897	51	49
	人工林	37,233	34,139	△ 3,094	46	48

※2 は表3の※2と同じ。

※3 無立木地があるので、天然林と人工林の合計は100にならない

NPO法人
多摩住民自治研究所

設立50周年に向けて、読者のみなさまから投稿を募集いたします。これまでの多摩研の思い出やエピソード、そしてこれからの多摩研に期待することなどを事務局までお願いします。

50th Anniversary

t a m a k e n
INSTITUTE of LOCAL SELF-GOVERNMENT in TOKYO-TAMA
since 1971

ともに祝おう50周年！ みんなでひろげようタマケンの和！

多摩研事務所で販売中です！！！！

ぜひ、お気軽に事務局にお立ち寄りください(^o^)/

1. アマビエTシャツ 1枚 1,500円

※詳しくは同封のチラシをご覧ください。

2. 書籍

『明日のための近代史 ー世界史と日本史が織りなす史実』

伊勢弘志・著 芙蓉書房出版 2,000円(税込) 多摩研特価！

『アメリカ白人が少数派になる日 ー「2045問題」と新たな人種戦争』

矢部武・著 かもがわ出版 1,900円(税込) 多摩研特価！

『長期停滞の資本主義 ー新しい福祉社会とベーシックインカム』

本田浩邦・著 大月書店 2,500円(税込) 多摩研特価！

『東京の論点 ー小池都政を徹底検証する』

東京自治問題研究所、山本由美、寺西俊一、安達智則・編 旬報社 1,320円(税込)

『日本と朝鮮の2000年 ー日本と朝鮮の歴史を正しく知ろう』

吉田博徳・著 学びあい支えあう会 1,300円(税込)

すべて郵送も可能です！

(送料100円)

ご希望の方は、多摩研事務局まで、お電話・FAX・emailでお知らせください。

財政研究会のお知らせ

第63回 学習会

テーマ

「日野市の非常事態宣言下
における財政運営」

報告者：大和田 一紘 氏

日時：12月12日(土) 14:00～

場所：多摩住民自治研究所

参加費：300円

